

Archive for 3 月, 2011

[水泳部 プールサイド掃除](#)

火曜日, 3 月 29th, 2011

こんにちは、水泳部です。

昨日は暖かい日が差して、春らしい天気となりました。そんな中でプールサイドの掃除を行いました。



半年(?)間の汚れがたまってプールサイドはかなり汚れています。

その汚れをデッキブラシを使って落としていきます。

午前10時ごろからお昼をはさんで午後3時過ぎまでかけてようやくプールサイドの一辺の掃除が終わりました。掃除を始める前と比べたら格段にきれいになりました。

プールサイド掃除は明日以降も練習後に続けていきます。

あと半月後には部全体でプール内の掃除を行い、泳ぐことのできる環境になります。例年通りならば丹有大会は5月下旬、県大会は6月下旬に行われます。シーズンインまであとわずかです。

[水泳部 ブラジル報告](#)

火曜日, 3 月 22nd, 2011

こんにちは、水泳部です。

本日、午後からミーティングを行いました。主な議題は、新入生勧誘の方法の確認と、昨秋ブラジルで行われた県の若手地域農業リーダー海外研修に参加した部員による報告です。ブラジル研修の報告は水泳とは直接関係のない事柄ですが、せっかくの貴重な体験ですから部全体で共有できたらということでこうした場を設けることにしました。



写真は、パワーポイントを使っのブラジル報告に聞き入る部員たちです。

熱のこもった説明にみんな身を乗り出して聞いています。

コーヒーの木や実といった土地特有の農作物や、広大な土地を使って行われる大規模農業のあり方、大都市に存在する大きな貧富の差など、さまざまな点で日本と違っているブラジルの風土や文化、現状に、みんな興味津々でした。

今後もこうした機会を設けていきたいと思ひます。

地域貢献活動 農業クラブ JR 三田駅前草花苗無料配布

金曜日, 3月 11th, 2011

3月10日(木) 本校人と自然科農業クラブによる草花苗の無料配布が JR 三田駅前にて実施されました。



この活動は地域貢献活動の一環として実施されており、地域に少しでも緑をとという思いで、約30年前から続く伝統ある活動です。生徒が普段の実習での学びを生かし、種まきから自分たちで栽培し、JR三田駅前で配布します。この日のために農業クラブ執行役員は放課後に播種や鉢上げ、花がら摘みなどの作業を行いました。



当日は、一袋にバンジーを3鉢ずつ入れたものを100セット用意し、三田駅2階北口を通行される方々に心をこめて



『有馬高校人と自然科農業クラブです。草花苗の無料配布を行っていますのでよかったですら受け取ってください』

と手渡しました。受け取った方からは



『ま〜きれい。本当にありがとう。大切に育てるね』

など、たくさんお礼の言葉を頂きました。用意した100袋は約20分で配布終了。充実した時間となりました。次回は春の農業祭前(4月中旬～下旬)に行う予定です。

[三田市全国高等学校選抜大会等出場選手激励会・報告会に出席](#)

金曜日, 3月 11th, 2011

3月9日(水)三田市役所にて全国高等学校選抜大会等出場選手激励会・報告会が開催され、本校からも全国大会に出場した7名が出席し、表彰・激励を受けました。この会は三田市に在住・在学の生徒で全国大会に出場した、もしくは出場する生徒を対象に表彰・激励していただける会で、今回は三田市内の中高生20名が表彰を受けました。



本校からは7名の生徒が表彰・激励されました。出場競技と結果は以下のとおりです。

◎第5回全国高等学校囲碁選手権大会(平成23年3月20日出場予定)

◎第6回日本学校農業クラブ全国大会農業情報処理競技(平成22年10月6日出場 優秀賞受賞)

◎第20回全国産業教育フェア茨城大会第9回フラワーアレンジメントコンテスト(平成22年10月16日出場 金賞受賞)

◎第5回 NFD 全国高校生フラワーデザインコンテスト(平成22年2月26日出場 金賞受賞)



まず、三田市竹内市長から『みなさんの活躍は、三田市に夢と活気を与えている。みなさんも自分自身の夢に向かってさらに頑張ってください』と激励の言葉を頂きました。



そして受賞者より全国大会に向けての抱負や全国大会の結果報告などを行った後、市長より直接、受賞者各々にトロフィー・盾が授与されました。



有馬高校生はこれからも自分たちの活躍で、地元三田市を盛り上げます。

[人と自然科 NFD 全国高校生フラワーデザインコンテスト 金賞受賞](#)

木曜日, 3月 10th, 2011

2月26日(土)京都府 京都みやこめっせにて、第5回NFD全国高校生フラワーデザインコンテストが開催され、本校人と自然科からも4名参加し、3年生の女子生徒が1位となる金賞を受賞しました。



高校生日本一の作品を決定するこの大会は、フラワーデザインの甲子園ともいわれています。全国から集まった62名の頂点に立った金賞の作品をご覧ください。



また、本校から出場した他の出場者も、入賞してもおかしくない素晴らしい作品を作り上げました。どうぞご覧ください。



これも日頃の練習の成果ですね。おめでとうございます。

そして卒業式直前のこの快挙に、生徒集会での表彰伝達ができず、卒業式終了後に、なんと校長先生が直々に教室に来られ、金賞受賞の表彰伝達(披露)と、恒例の校長インタビューが行われました。卒業式に花を添える素晴らしい出来事でした。



[地域貢献活動 三田市社会福祉協議会へ車いす寄贈](#)

水曜日, 3月 9th, 2011

3月8日(火)本校校長室にて三田市社会福祉協議会への車いす贈呈式行われました。

有馬高校では育友会(本校PTA)と連携し、毎年6月に開催する有高祭と12月に開催されるマスターズマラソンにバザーを出店。その収益金を車いす購入に充て、三田市社会福祉協議会に寄贈しています。(下の写真は今年のマスターズマラソンでのバザーの様子です。)



贈呈式には、三田市社会福祉協議会会長・育友会会長・副会長・校長・教頭・そして生徒代表として 生徒会・農業クラブ・BHE(ボランティア同好会)の代表など多くの関係者が出席しました。



校長先生・育友会会長のあいさつの後、目録(車いす2台・歩行器1台)が生徒代表より協議会会長へ渡され、会長より『生徒や育友会の方の温かい気持ちに心から感謝するとともに、今回寄贈していただいた車いすを大切に使用させていただきたい。』とお礼の言葉を頂きました。



有馬高校からの車いす寄贈は平成4年から始まり、今回で20回目。今回寄贈した2台を合わせて合計43台となりました。ちなみに今回寄贈した車いすは、三田市保健福祉センターに配置され、市民への貸し出し用として活用される予定です。(社会福祉協議会での貸し出し用車いすの利用は、年間約600件あるそうです。)



その後新聞社4社から生徒に取材。生徒は『バザーの時はマスタースマソンを走り終えた参加者の方に温まってもらいたいと思い、一生懸命販売を頑張りました。今回はその時の努力がさらに人の役に立てるということで本当にうれしく思います。』など、ボランティア活動での充実した気持ちを一生懸命話していました。

[水泳部 ただ今陸トレ中](#)

火曜日, 3月 8th, 2011

学年末考査も終わり、平成22年度もいよいよ最終コーナーに入ってきました。

そして長く厳しかった冬もそろそろ終幕が近づき、少しずつではありますが、春の息吹が感じられるようになってきました。

春、それは冬がオフシーズンの私たち水泳部にとっても待ちに待っていた季節。現在、春らしい雰囲気
が漂ってきたプールで陸上トレーニングを行っています。



この後は、だいたい一ヶ月半後の4月下旬にプールの大掃除を行い、ゴールデンウィークの頃からプール
に入って泳いでいきます。

シーズンの到来まであとわずか。それまで陸上トレーニングで力を蓄えていきます。

[人と自然科 誇るべき三田の伝統 わら小屋によるうど栽培を学ぶ](#)

月曜日, 3月 7th, 2011

2月21日・22日・24日 人と自然科2年生を対象に、誇るべき三田の伝統的栽培法 わら小屋によるう
どづくりに関する特別授業が行われました。(有馬高校は現在スペシャリスト育成重点校に指定されてお
り、その一環として実施しました。)今回講師にお招きしたのは、JA 兵庫六甲の岡野さん。そして、約50
年間うどづくりの伝統を守り続けてきた農家の仲さん(本校卒業生)です。



皆さん『うど』という野菜をご存知ですか？うどは日本原産の野菜で、野生種は日本各地の山地に自生
しています。食用にするのは若い葉や茎で、普通に育った茎は堅くて食用になりません。そのため株を掘
り上げて光の入らない所に移し、暗闇の中で育てます。そうすることで柔らかく育ち、茎が食べられるよ
うになります。これを『軟化』と言います。

有馬高校が位置するここ三田では、独特の技術として『わら小屋』と『発酵熟』を利用した軟化技術が確
立されました。うどを軟化させるために作るわら小屋は、三田の冬の風物詩にもなっています。(下の写真

のような光景見たことありませんか?)三田うどは上品な風味と早春をつける芽物野菜として高く評価され、全国に誇る三田の伝統野菜です。



しかし良質のわらを確保する手間や、発酵熱を利用した温度管理の難しさから、わら小屋は減少する一方。今回の講義ではその伝統的な方法をこれからの地域農業を担う有馬高校人と自然科の生徒に伝えたいという思いもこめられ実現しました。

今回、実際にうどの株をそのまま持参していただきました。ウドを見たのが初めてという生徒が多く、その大きさに驚いていました。



そして、うどの株分けや施肥量、うど小屋の構造など、受け継いできた技術に関する説明を頂き、さらには商品価値を高めるための刈り方も実技指導。うど栽培の魅力に興味を持った生徒も多く、わら小屋の建て方などについての質問が多く飛び出しました。



収穫したうどは、小さく切り分けられ全員が自宅の持ち帰り試食。きんぴらやてんぷらにして食べ、食感が非常によくおいしかったと大好評でした。



最後に仲さんからは『現在は電熱線で温めて軟化させるハウス栽培が主流となっているのも事実。より良い栽培法をぜひ皆さんのような若い人が研究してほしい。そして今回皆さんに伝統技術を伝えることができ本当にうれしかった。郷土の素晴らしい味を是非受け継いでください』との温かいメッセージ。本当に授業を受けた生徒にとっても、教えていただいた大先輩の仲さんにとっても充実し、大満足の時間でした。

人と自然科 第1学年 農業先進地見学実施

水曜日, 3月 2nd, 2011

2月22日(火)人と自然科1年生が、これまで学習してきた内容が実際どのように生かされ、応用されているかを見聞し、農業・就農に関する興味関心を持つために、県内の先進地を見学しました。(今回の見学は、兵庫みどり公社が実施している『高校生就農出前講座事業』の御後援を頂きました。)

今回訪れたのは、兵庫県農林水産総合技術センター・兵庫県立農業大学校・兵庫県立フラワーセンターで、兵庫県の農業を支えている中枢施設です。



まず訪れたのは、兵庫県農林水産総合技術センター。近隣の加東市で、死んだ野生のコブハクチョウから鳥インフルエンザが検出された影響もあり、施設のいたるところに石灰が撒かれ、道路はまっ白。バスも中に入ることができず徒歩で施設まで移動するなど超厳戒態勢でした。生徒も全員靴の消毒などをしっかり行い、防疫に対する心構えを身を持って体験しました。



そして技術センターの大西先生から、兵庫県の農業の現状と技術センターで行われている研究内容の講義を頂いたあと、実際に施設内を見学しながら説明していただきました。1棟の温室から通常の4倍の収量を確保するトマト栽培技術、イチゴやバラなど省力化を考えた栽培技術など、作物・果樹・野菜・花卉・畜産などそれぞれの分野の最新の研究を教えてください、生徒も熱心に話を聞いていました。



次に農業大学校。次世代の農業を担う人材を育成する専修学校です。実際に現場で指導されている先生方から、野菜と草花を中心に実習内容を説明いただき、さらに実際に学んでおられる先輩からも直接話を聞くことができました。



お昼過ぎには県立加西フラワーセンターに移動し、ちょっと遅めの昼食。2月にしては暖かく、雲ひとつない青空の下で食べるお弁当は最高でした。



そして午後のプログラム。フラワーセンターの土居先生より、園内の見学をしながら植物の説明を受けました。土居先生は、食虫植物の世界ではとても有名な先生で、フラワーセンターにもめったに見ることが出来ない食虫植物が多く存在しています。今回は特別に普段立ち入ることのできないバックヤードの見学という超貴重な経験もさせていただきました。(最近流行りのバックヤードツアーですね)



温室内のペゴニアやラン、熱帯植物の説明のあと、本題の食虫植物ゾーンへ。『サラセニア』という食虫植物を特別に解体し、実際に昆虫をため込んでいる様子の観察、『ハエトリソウ』が昆虫を捕獲する仕組みについて実演を交えての解説、さらには現地とここフラワーセンターでしか見ることのできないともいわれている、貴重な『ペルピレイ』という食虫植物の紹介などなど、どれも興味を引くものばかりでした。生徒の中にはすっかり食虫植物に魅了され、自由研修時間もずっと土居先生につきっきりで説明を受けている者も多かったです。(予定では15:00過ぎに学校に戻る予定が、あまりにも充実していたので17:00になってしまいました。)



今回多くの方にお世話になり、生徒は本当にかげがえのない経験を積むことができました。本当にありがとうございました。生徒の皆さん。この経験を今後の学習に活かしましょう。